

モンゴリアンクラブ

No.4 1 2024/3/1
発行：鳥取県モンゴル
中央県親善協会

在モンゴル日本大使館 井川原大使が中央県日本語学級を訪問



井川原大使(2列目中央)を囲んで中央県関係者も一緒に記念撮影

今年1月17日に在モンゴル日本大使館井川^{いがわ}原^{はら}賢^{まさる}大使が日本語学級を訪問。熱心に日本語を学んでいる様子を視察され、日本語学級の子供たちは歌やダンスで歓迎しました。

日本政府は1990年から「草の根無償プロジェクト」を実施しており、この日、中央県では29件目となる資金供与の契約をムンフバートル知事と行いました。今回はウンドゥルシレート郡小中高等学校の改修資金の契約です。

当日は、2022年に草の根無償プロジェクトで改修したゾーンモド郡ブジンヘン統合幼稚園を視察したのに合わせ、日本語学級を視察されました。(一部在モンゴル日本大使館HPから抜粋)



2024年度総会を開催します。ご参加ください。

日時 2024年4月14日(日) 午後1時30分～3時30分 (午後0時半から昼食)
場所 倉吉駅舎1階 エキパル倉吉 多目的ホール (倉吉駅駐車場をご利用ください)

今年度もオンラインで日本語学級と交流

2023年12月17日（日） 境港のお魚紹介

境港市 夢みなとタワーで境港漁港に水揚げされた巨大なマグロの様子をDVDにして紹介しました。日本語学級9人が参加。海のないモンゴルでは見たこともないダイナミックなマグロに子ども達からつぎつぎ質問が飛び出しました。



会員の石黒さんがDVDを解説。資源保護の取り組みも説明しました

どんな方法で魚を捕りますか？
魚は大小中どれがおいしいですか？
生で食べられますか？

はえ縄漁と一本釣りがあります。
中くらいが美味しいです。
色々な食べ方がありますが、刺身など
生で食べるのが一番おいしいです。



2024年2月3日（土） 作文発表と折り紙交流

鳥取市さざんか会館で、オンラインによる1対1の日本語学習を続けていた生徒9人が「私の好きな食べ物」という題で個性豊かな作文を発表しました。その後、藤原さんの指導で折り紙の小物入れを作りました。



今年は日本語学級の生徒13人が日本語検定試験を受け、8人がN5に合格したそうです



子ども達はとても上手に仕上げました

各地の国際交流フェスタでモンゴルを紹介

10月1日(日)

米子市文化ホールで「よなご国際交流フェスティバル」が開催されモンゴルを紹介しました。7月の友好交流の翼の報告写真展も実施しました。



モンゴルクイズが大好評
フェルトのショルダーバッグや革製キーホルダーの
販売も好評



11月12日(日)

伯耆しあわせの郷で「くらよし国際交流フェスティバル」が開催され、ハウシュルを作って、食べ物ブースで販売しました。



4年ぶりの開催で懐かしい
面々とたのしく調理

200個のハウシュルを完売



11月25日(土)

境港市 夢みなとタワーで「中国・モンゴルを楽しもう！」が開催され、モンゴル衣装デールの体験やゲルの体験、モンゴルの遊びや暮らしの紹介を行いました。



タワーに常設されている大きなゲルにたくさんの方が訪れました

ロビーでは7月に実施した友好交流の翼の報告写真展を開催



鳥取のお父さんと交流継続

夢を叶えて再生可能エネルギーエンジニアに

2010年第5回日本語体験事業に参加したサンダガドルジさん（当時12歳）はホストファミリーだった清水さん一家と今も交流を続けています。昨年末も清水さん宅に彼の姿がありました。子どもの時からの「環境問題に取り組みたい」という夢を叶えて日本の企業に就職が決まりました。



サンダガさんと清水さん
← 現在 13年前 →



私の人生には、日本との特別な絆があります。

私の名前はバトナサン・サンダガドルジです。私は中央県のゾーンモド郡で生まれました。2010年7月に鳥取県との交流プログラムに参加し、初めて日本を訪れました。その時から日本とのつながりを感じています。

現在は東京で再生可能エネルギーのエンジニアとして働いています。

日本の文化や言語に触れ、多くの友人との関係を築きながら日本を学びました。最初に日本に来たときは言語の壁にぶつかりましたが、鳥取県の人々やコミュニティの温かさに支えられ、克服することができました。特に、13年前、清水さんの家にホームステイして中ノ郷小学校で勉強した経験は非常に貴重で、人々の親切が心に深く残っています。

鳥取県との交流は、日本とモンゴルの交流を促進し友好関係を深める重要な役割を果たしてきました。長い歴史を持つこの関係は、私たち全員が尊重し、大切にすべきものだと思います。私もみなさんと共に両国の友好関係の発展に貢献したいと考えています。

鳥取県モンゴル中央県親善協会の皆さん、日本の皆さん、これからもよろしくお願いします。

サンダガより

2010年に来県した子ども達



中央がザンダガ
右端は引率のムンフボルドさん

日本語弁論大会のサンダガの原稿から

「ちきゅうおんだんかの、さばくかのひがいをすこしでもさくげんするため、いえのちかくに、かぞくできを100ぼんうえました」

通学体験した中ノ郷小学校の生徒の日記から

「サンダガさんは、激しく遊ぶこと火のごとし、静かに読書すること林のごとし、校庭を駆け抜けること風のごとし、どっしりの体格で山のごとし」